

◆発行◆

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課
いわき市少年補導員
連絡協議会



◆連絡先◆

平少年センター TEL 22-5431
小名浜少年センター TEL 54-1890
勿来少年センター TEL 63-3467
常磐少年センター TEL 43-2305
内郷少年センター TEL 26-2974
四倉少年センター TEL 32-2920

第9回 いわき市青少年育成大会

8月28日に文化センター大ホールにおいて「～生かそう、きずな。未来のために！～」をテーマに、第9回いわき市青少年育成大会が開催され、少年補導員や学校教職員、青少年育成団体ほか各関係機関から、約310人が参加しました。

オープニングセレモニーでは、福島県立磐城高等学校チアリーダー同好会「MESMERIZE」による、明るく若さあふれるチアダンスが披露され、大会に華を添えました。

意見発表では、小学生、中学生、高校生の代表5人が、学校での活動や出来事の中で、日頃感じている思いを力強く発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。

記念講演は、元警視庁警察官で、警察官のキャリアと、自身の子育て経験を基に「少年犯罪予防委員

会」を設立し、少年犯罪予防に取り組んでいる幸島美智子さんが、「子どもを犯罪の加害者にしない子育て～ネット社会における子育て～」を演題として、いじめやネット社会、虐待等、子どもたちを取り巻く様々な問題とその対応の仕方や、子どもたちを真の大人へ育てるために必要なことを参加者に伝えました。

【意見発表者】

- ・平野凜さん（中央台南小4年）
「『いじめ』について考える」
- ・小澤美月さん（赤井中3年）
「今、私が伝えたいこと」
- ・土井ゆかりさん（勿来二中3年）
「差し伸べられる手で変わる心」
- ・菊地優花さん（小名浜高2年）
「友達として支えよう」
- ・田仲知樹さん（好間高3年）
「薬物乱用防止
～考えよう私たちの未来～」



福島県立磐城高等学校「MESMERIZE」によるステージ

日々新たに
～輝く未来へ向かって～
いわき市少年補導員連絡協議会
会長 松崎 総一郎

あの東日本大震災より、早いもので5年強という時間が経過しようとしています。我が故郷いわきも大分落ち着きを取り戻してきている、そう感じています。

一方、私たちは街頭補導や有害環境改善により青少年の非行防止に取り組んでおりますが、青少年

を取り巻く特徴として、震災後の不審者の増加傾向が見られることから、「見える補導・見せる補導」や、各関係機関との情報交換・共有化が大切であると思います。

さて、上記のように、去る8月28日、文化センター大ホールにおいて第9回いわき市青少年育成大会が開催されました。講師の先生による講演の中での、子どもたちを取り巻く環境問題や虐待・いじめ問題への対応、ネット社会やスマホの問題点とその対応、子どもたちを真の大人に育てるため

に、等のお話は大変重要且つ参考になるものでした。教育とは教えること、一定の方法で未成熟者の心身両面を発達させるよう導くこと、とあります。

本年は、いわき市市制施行50周年を迎え、色々な事業が展開されています。私たち少年補導員も、次代を担う子どもたちが輝く社会づくりを目指し、ボランティアや各関係機関の方々と、「日々に新たに、共に」の心を大切にしながら、今後共活動していきたいと思っています。

『ぼくしない なかまはずれと みないふり』

平成27年度いじめ根絶10か条標語の部 最優秀賞 安島 あかり

補導に参加して

内郷方部

補導員 高梨 栄子



私が補導員を引き受けた時は、歩く補導でした。巡回をしているとタバコを吸っている高校生たちに出会い「タバコは良いのかなー」と笑いながら声をかけると「すみません」と素直に頭を下げてタバコを消していました。人は見た目で判断してはいけませんね！

早朝補導では、駅に出入りする高校生や大人の人たちに声掛けとティッシュを配っていますが、受け取らない人が少しずつ多くなったように思います。携帯を見ながらイヤホンをつけ、周りを気にせず歩く姿が目につき、自分中心に考える人が多くなった気がします。これからも多くの人たちに巡回車で見える補導をと頑張っていきます。

震災と子どもたち(植田～植田)

勿来方部

補導員 三戸 進

8月20日(土)、「いわき防災サマーキャンプin勿来」が始まりの朝を迎えました。

今年は植田公民館で行われました。振り返れば、あの3.11東日本大震災の経験が出発点でした。

子どもたちに防災体験プログラムを学習させる市の企画に私自身興味があり、この運営に参加しました。植田公民館から、錦、勿来、山田、そして植田公民館と一回りして改めて感じたことは、この企画事業に参加していただいた実行委員、事務局関係者の熱い情熱と、勿来各地区の小学校9校から参加してくれた元気な小学生32名(4～6年生)の姿です。

『差し出した その手につながる 笑顔の輪』

平成27年度いじめ根絶10か条標語の部 優秀賞 馬上 星那

Report

街頭補導活動リポート

幸せだねって。

また、高校生のお母さんはいませんか？ どうぞ「良く頑張ってるね」って言ってあげてください。「当たり前」のことをやり続けるって大変ですよ。皆さんの一言で、気持ちが楽になるお母さんがいるかもしれませんよ。

どうか無事に大きくなって

常磐方部

補導員 根本 陽子



「ばいばーい」巡回車の青いランプを見て、笑顔で手を振るランドセルの子どもたち。巡回車の中から、手を振り返します。時間帯が変わると、出会う子どもたちの年齢も変わってきます。試験帰りの高校生や部活帰りの中学生。対向車は彼らに気が付いているのかしら。こんな時間に一人で歩いてどこまで行くのかな。悲惨な事件や事故の報道が後を絶たない現代、何もなくて家に着くことは実は当たり前ではないかもしれません。青いランプの車が巡回し、私たちが活動している姿を見せることで、事件や事故への抑止力になればこんなに嬉しいことはありません。巡回車の中から祈ります。どうか無事に大きくなって下さいね。

補導活動の今

四倉・久之浜方部

補導員 高木 重行

補導活動の時間にもよりますが、最近子どもたち

『見てるだけ… それでも誰かを 傷つける』

平成27年度いじめ根絶10か条標語の部 優秀賞 北郷 みなみ

を見かけることが少なくなった気がします。少子化によるものか、外で活動する子どもたちが少ないのかよくわかりません。ゲームやスマホといった個に籠る時代の流れなのでしょう。補導の方法もこれまでの流れでよいのかと思うこともあります。中高生の若い世代と話す機会は多く、彼らの考え方がとても堅実で、大人だと思うことがしばしばあります。自分の同時代を振り返れば、何としっかりしているのだろうと思う反面、心身のバランスがとれていない状況での心の脆さも同時に感じます。本音を伝え、共感できる友達を作れる時期を活かしきれていない子も多いです。10代は一生の友達を作れる大切な時期。一人で抱え込まず、悩みを共有し支え合える友達を見つけてほしいです。大人世代は、彼らの心の声、本音を言える環境を整える事が大切な役目だと思います。

補導員になって

小名浜方部

補導員 佐藤 修

私が補導員になって9年が経ちました。初めの頃は、何をやっていいのかわからず、先輩方から子どもたちへの声かけのアドバイスをいただき勉強になりました。ありがとうございました。

パトロール中に子どもたちと出会うと、声をかけ、話を聞き、気をつけて帰るんだよと話し、子どもたちは元気よく「ハイ、帰ります」と言って別れます。

一声運動は、今、子どもたちの事件、非行が多い中必要であり、見せる補導をしながら温かい目で見守り続けることが私は大事だと思います。私はいくらでも“見守り一声”運動を頑張ります。未来の宝である子どもたちを、地域の方々も見守り続けていただきたいと思っています。



家庭のちかい

- 1つ 親も子も、早寝、早起きして規則正しい生活につとめます。
- 2つ 親も子も、進んであいさつするようにつとめます。
- 3つ 親も子も、何でも話しあえるようにつとめます。
- 4つ 親も子も、家事を分担し、役割を果たすようにつとめます。
- 5つ 親も子も、隣近所と仲良くし、社会参加につとめます。

(毎月第3日曜日は家庭の日です)

フレッシュな新任補導員から一言

私たち大人にできること

平西方部 補導員 松本 紀子

先日、JR赤井駅で行われた早朝特別補導に参加しました。通常の街頭補導では子どもたちに見える事が少ないのですが、早朝に登校する子どもたちの顔を見て直接声を掛ける事ができました。SNS等の普及で人と人とのコミュニケーションが不足している昨今、少年犯罪は悪質化している様です。それを未然に防ぐには周りの大人の目と優しい声掛けではないでしょうか。これからも「愛の一声」を続けていきたいです。

勿来方部の一員として

勿来方部 補導員 佐藤 勇雄

拝命して1年半、私は未だに補導対象になるような事案には遭遇したことはありません。それは取りも直さず、歴代補導員の皆様の不断の奉仕が非行防止に成果を上げている証しだと感じます。

震災などの有事のボランティアは多くの脚光を浴びます。しかし、こうした常日頃の地道に地域を守る活動にも大きな意義があるのだと実感し、この活動に携わる一員として、責任と使命を再確認しております。

見えない不安

少年アドバイザー 白土 和之

最近の青少年を取り巻く環境について考えてみます。先ず気付くのは、各方部で問題を含んでいた場所（特に駅前等）が非常に静かになり、駅前等での高校生が少なくなったことです。また、不審者

が相変わらず多く出ており、震災前はある程度地域が限られていたのが、最近は市全体で不審者が出ていることです。それに伴って、街頭補導が、場合によっては疎かになり、青ランプを光らせて巡回

する「見える補導・見せる補導」が多くなってきていると思います。

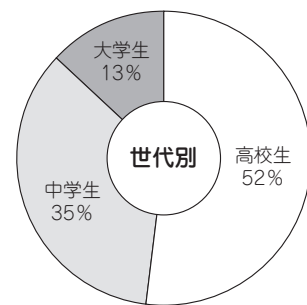
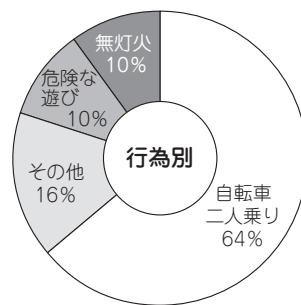
震災前と比べ、喫煙やカラオケ等での不純異性交友、自転車の二人乗り等は少なくなり、喜んで良いのか、それともそれらの行動が我々の見えないところで…と思うとすごく不安です。

街頭補導の状況

平成27年度の街頭補導における内訳は、右のグラフのとおりです。

補導人数は31人で、平成26年度と比較してやや減少した数字となっています。

行為別では、自転車二人乗りが20人で最も多く、路上でのスケートボード等の危険な遊び、及び夜間における自転車の無灯火が共に3人となっています。



編集後記

広報部長 新妻 玲子

とても驚く報道を耳にしました。監禁されてしまった少女がどうにか外に出られた



時に、公園にいた人に助けを求めたけれど「今忙しいから。」と断られ絶望的になってしまった、というものです。その時に対応していれば事件は早く解決していただろうと思います。補導の声掛けの時は勿論、大

人が皆子どものサインをキャッチできるようにしたいものです。直接話し合うことは大事だと思っています。この機関紙がその名の通り明るい未来へのかけはしとなることを願っています。

『悲しいね きこえないふり 見ないふり』

平成27年度いじめ根絶10か条標語の部 最優秀賞 清水 春花